

# 女性の視点でつくる かわさき防災プロジェクト

## メンバー 募集!



### 取組内容

- ① 防災に関する調査研究・情報発信!
- ② 防災講座の企画・実施
- ③ 出前による普及活動

JKBとは…

J:女性の視点でつくる  
K:かわさき  
B:防災プロジェクト

### ① 防災についての身近な情報発信!

他地域との視察交流会や開催した講座を防災ニュースレターとしてまとめて発信しています。  
災害時のトイレ事情と対策編  
(冊子も手作り)



### ② 講座の企画と運営

「トイレ」「集合住宅」「避難所運営」など災害時にこれだけは知っておきたい事情と対策等について講座を企画し1から運営を手掛けています。



### ◆定例会議について◆

活動日: 月1回・第3土曜午後定例会議  
場所: すくらむ21  
対象: 市内在住の女性

### ◆申込方法◆

お名前、住所、連絡先(メールアドレス、電話番号)を記入の上、専用の申込用紙をメール添付、もしくは、FAXでお申込み下さい。

### ③ 区や自主防災組織への防災イベント・出前講座

日常の暮らしの中で、生活者としての知見を活かして、できることを積み重ね、わかりやすい防災、だれもが取り掛かりやすい防災をテーマにイベントを実施しています。

### プロジェクトメンバーの姿勢

現在 5名

- \* 1人ひとりが防災の主体であり続けること、自助力を高めていくために取り組むことを活動の基本とする。
- \* 取り組みを通じて、女性のエンパワメントにつなげ、地域の女性の防災リーダーを1人で多く増やしていきたい。
- \* メンバー自身が地域に根差したつながりを積極的に作り、既存の組織と連携しながら、長期的な視点で自分の暮らしまわりのづくりに関わる。

- \* 2012年9月～活動開始。
- \* 2014年3月に市民活動グループに。

# 女性の視点でつくる かわさき防災プロジェクト

製作: 女性の視点でつくるかわさき防災プロジェクト(通称: JKB) 発行: 川崎市男女共同参画センター(愛称: すくらむ21)

## 『大震災と余震の恐怖が襲う。その時あなたは?』を開催しました。

防災・減災  
講座  
第6弾



第1回目 9/24(土)  
加藤氏の講座

2016年9月24日(土)、10月1日(土)、「長期避難時の心構え」をテーマにした2回連続講座を開催しました。1日目は加藤篤氏(NPO法人日本トイレ研究所代表理事)、2日目は浅野幸子氏(減災と男女共同参画研修推進センター共同代表)を講師にお迎えし、お二人が熊本地震で見た避難生活の実態を通して、災害時、どんな点に留意すべきかを考える講演をしていただきました。

1日目の加藤氏からは、「熊本地震での避難

所のトイレには、これまでの災害時の教訓や課題がまだまだ活かされてはいなかった。」ことを踏まえ、具体的な注意点と、どんな準備が必要なのか?というお話をいただきました。

- ・仮設トイレが届いても組み立てられず、学校の校庭に積まれたままだった。

- ・トイレはあるが、夜間の明かりがなく、怖い思いをしなければならなかった。

- ・仮設トイレは汚物を溜めるタンクの高さ分の段差があり、身体が不自由な方や高齢者にとって、

非常に使いづらかった。など…

避難所に行けば何とかなると考えずに、各自が携帯トイレなどを事前準備しておくことが大切である。ということでした。

2日目の浅野氏からは、「避難生活の実態と被災者の命・健康を守るための対策」をテーマに、浅野氏の活動実体験を通し、地域の助け合いがなぜ重要か？というお話をいただきました。

各区で配布しているハザードマップを見ながら、土砂災害が起こった場合、自分の住んでいる地域はどのくらい浸水するか？を確認しました。

また「平日午後2時に大災害が発災した場合、あなたと家族はどこにいますか？誰といますか？」という問いから始まり、平日昼間の災害時対応を家族で話し合っているか？、平日に家や地域にいるのは、女性や子ども達が多いと想

定される…地域の避難訓練や初期消防訓練の企画や運営に女性が参画している必要がある。などの事前準備に関することや、熊本地震では、自宅は壊れていないが度々の余震の恐怖から避難所ですごしたい人、自宅を失い避難所に行きたいが、心身に障がいをもっているため避難所生活が難しい人など、多様なニーズへの対応が必要になったということから、避難生活では、「地域での助け合いが非常に重要であり、事前の準備は、置かれた状況を具体的イメージしながら行うと効果的。」というお話をいただきました。

どちらの講座も、熊本地震で見た避難生活の実態を踏まえたものが盛り込まれていたため、リアリティがあり、とても興味深い内容でした。



第2回目 10/1(土)浅野氏の講座

すくらむ21では、大学生のインターンシップの受け入れをしています。インターンの皆さんが、学生ならではの視点で防災について紹介している記事です。

## 「物語」から考える、1人暮らし学生の防災

震災にいつ遭遇するかわからない今、一人暮らしの女子大学生も防災の備えが必要です。ひとり暮らしの女性を主人公に「架空の物語」を作り、何が必要かを考えてみました。

私は、東京都在住の女子大学生 A 子。平成〇年〇月〇日午後6時頃、自宅にいる時に震度7の地震に遭遇。激しい揺れに戸惑いつつ、私は机の下に隠れた。部屋の電気が消えた。数分後、揺れは収まり、急いで部屋の電気をつけようとしたが、つかない…。停電してしまった。慌ててスマホを取り出し室内を照らすと、棚にあったものが床に散らばっていた。ガスコンロとキッチンの蛇口が閉まっていることを確認した。とりあえず情報収集のためにテレビ！と思ったが、停電でテレビはつかない。災害の時はラジオからの情報が有効だと聞かすが、私はラジオを持っていなかった。スマホのアプリにラジオを入れていたのを思い出し、スマホでラジオを聞いた。その情報によると私の住む地域に避難指示が出されていた。

「避難しなければ！」と思い、とりあえず学校に持っていくバッグと、先日ポストに入っていた防災マップを持って家を出た。道路には、ところどころにガラスの破片が

散らばり、傾いた家などがある。私はマップとスマホを頼りに一次避難所に向かった。道中でスマホの充電が10%を切っているのに気づいた。焦ってバッグの中を探し、予備バッテリーを見つけ、充電しながら道を急いだ。

何とか避難所に着くと、何人かの避難者がいた。私は暗闇の中、慣れない道を歩いた疲れと緊張感で喉がカラカラだった。ラッキーなことにバッグの中には500mlの水が入っていたので、それを飲んで避難所で休むことにした。汗をかいていたが、入浴できるはずもなく、着替えの下着も持っていなかった。避難生活が長期になることも考えられるため、下着は清潔でいたい。そこでバッグの中にあった「おりものシート」を活用することにした。

この日は余震の恐怖と、慣れない避難所の環境によって眠ることができなかった。こうして何とか震災1日目を乗り切ったのだった。

まだまだ必要なものはたくさんありますが、学生である私たちは金銭的にあまり余裕がありません。完璧に防災グッズを集めることが出来なくても、日常的に使っているもので代用することができます。例えば、ストッキングは怪我をした時の包帯の代わりに、生理用品は怪我で出血した場合の絆創膏の代わりになります。日頃持ち歩く物の中にも使えるものがいろいろあります。また、一人暮らしは、地域の自治会などに参加する機会がなく、近所同士での安否確認が困難になります。そのため、あらかじめ

	通常時	震災時	A子の場合
テレビ	○	×	×
ラジオ	△	○	×
スマホ	○	○	○
部屋の蛍光灯	○	×	×
懐中電灯	△	○	×
防災マップ	×	○	○
スマホの予備バッテリー	○	○	○
500mlの水	○	○	○
おりものシート	○	○	○

災害時に家族や友達と安否確認がとれるようにアプリの取得やSNSの活用をしておくのが良いでしょう。

(すくらむ21 2016年度インターンシップ生 飯野・河西・酒井)